

日本混相流学会
2007 年度第 2 回理事会・議事録

日時：平成 19 年 9 月 8 日(土) 13:00-17:00

場所：関西大学システム理工学部機械工学科会議室

出席者(理事)：井口学(会長)、矢部彰(筆頭副会長)、逢坂昭治(企画担当副会長)、高橋弘(情報部会長)、功刀資彰(企画部会長)、石井俊夫(国際部会長)、大参達也(総務部会長)、渡部正夫(九州地区担当理事)、大成博文(リエゾン担当理事)、服部修次(北陸・信越地区担当理事)、大川富雄(関西地区担当理事)

出席者(オブザーバー)：近藤健(事務局)

議題と配布資料：

- | | |
|-------------|----------------|
| 1. 前回議事録の確認 | [資料 2007-2-01] |
| 2. 各種委員会委員 | [資料 2007-2-02] |
| 3. 地区代表候補者 | [資料 2007-2-03] |
| 4. 情報部会報告 | [資料 2007-2-04] |
| 5. 企画部会報告 | [資料 2007-2-05] |
| 6. その他 | [資料 2007-2-06] |

議事：

1. 前回議事録確認

大参総務部会長から、資料 2007-2-01 に基づき前回議事録の確認があった。訂正等ある場合には近日中に総務部会長まで連絡することとした。

2. 各種委員会委員の承認

大参総務部会長から、資料 2007-2-02 および当日持込資料に基づき各種委員会委員名簿の確認があり、これを承認した。

(1) 委嘱状は事務局から各委員宛送付することを確認・依頼した。

3. 地区代表・監事候補

入退会者の確認を行った後、評議員を推薦する地区代表および監事候補に関して資料 2007-2-03 に基づき大参総務部会長から説明があった。

(1) 原則任期 3 年に伴い交代となる東海地区、関西地区、中国・四国地区のうち、東海地区と関西地区について各地区担当理事より推薦のあった地区代表の後任候補が示された。また、北陸・信越については地区代表と地区担当理事の重複を避けるために、新地区代表が地区担当理事より口頭で推薦された。これらは原案通り承認された。中国・四国地区については、打診中の予定者の承諾が得られていないことから、理事会後メールによる審議を行うこととした。 ※メール審議により、中国・四国地区代表を決定した。ただし、任期 3 年を超える留任となるため、本年度 1 年限定の任期との条件付で承認された。

(2) 監事候補者の推薦は第 3 回理事会で行われる予定である旨確認した。

(3) 各地区担当理事は、地区代表の行う評議員候補の調整作業に協力するとともに、11 月中旬を目処に候

補者名簿を総務部会に提出することを確認した。

- 総務部会から各地区代表への評議員候補推薦依頼は、総務部会長が行う。
- これまでの評議員データは、事務局で表に纏め、各地区担当理事にて確認を行う。
- 評議員定数については昨年度通りとする。
- 次期役員との整合性に配慮する。

4. 情報部会報告

4.1 編集委員会報告

高橋情報部会長から資料 2007-2-04a に基づき以下の報告があった。

(1) 論文投稿状況の報告

(2) 会誌発行に関する報告

21 巻 2 号～21 巻 4 号までの会誌編集状況が報告された。

(3) 会誌の編集方針／長期編集企画に関する報告

21 巻および 22 巻の特集記事タイトルの予定と編集委員会の開催スケジュールが報告された。

(4) J-Stage 関連

- 「混相流研究の進展」第 2 巻が公開されたことが報告された。
- 学会ホームページから J-Stage にリンクを張ったことが報告された。
- J-Stage での論文閲覧が可能であることを PR するための原稿を 9 月号に掲載するとともに、折り込みでも入れる予定であることが報告された。

(5) インターネット運営委員会関係

ホームページのリニューアルを予定している旨報告された。

(6) その他

学会誌表紙デザインのリニューアルを検討していること、また、学会誌掲載論文の参考文献を英語表記に統一するためのフォーマットを作成していることが報告された。

4.2 論文精選集審査関連

2007 年度年会講演会・混相流シンポジウム実行委員会作成の資料 2007-2-04b を基に、精選論文推薦状況について、実行委員会内の精選論文推薦委員でもある井口会長から説明がなされた。精選論文推薦委員会の作業範囲、推薦のスケジュール、推薦方法が報告され、これを了承した。

5. 企画部会報告

5.1 研究企画委員会設置案

資料 2007-2-05a に基づき、功刀企画部会長から新たに設置される研究企画委員会の設置案が提示され、以下の件について討議した。

- 研究企画委員会を構成する 16 の委員会およびそのリーダーの名称について、当初の案ではそれぞれ「研究企画委員会」および「委員長」であったが、統括組織と同じ名称では紛らわしいため、委員会を「分科会」または「研究企画小委員会」、リーダーを「主査」と呼ぶことが提案され、功刀企画部会長と小泉研究企画委員会長の協議を経て決定することとした。 ※理事会後のメール審議を経て、「分科会」および「主査」の名称を了承した。
- 「濡れ性と混相流」、「マイクロ・ナノバブルの科学と技術的展開」の 2 分科会について、それぞれ井口会長と大成理事から口頭で委員の異同が報告された。

- 分科会の数が当初の予定を超えて 16 となったことから、各分科会の予算を 5 万円とすると、企画部会の予算（70 万円）を超えることになることが報告されたが、この件も含め、原案中の全分科会の設置を承認した。
- 井口会長から、研究企画委員会の新設にあたって、現行の研究会との区別を明確にしておいた方がよいとの意見が出され、これまで議論のあったリエゾン委員会との関係も含めて、逢坂副会長、功刀企画部会長、大成リエゾン専門委員長、小泉研究企画委員長の間で次回の理事会に向けて議論を詰めることになった。
- 研究企画委員会の予算申請や会計報告については、研究企画委員長がとりまとめて必要な手続きを行うことを確認した。

5.2 リエゾン専門委員会報告

資料 2007-2-05b に基づき、大成リエゾン専門委員長から、9 月 21 日、22 日開催予定の第 2 回マイクロ・ナノバブル基礎セミナーについて概要の報告がなされた。また、持ち込み資料により、第 3 回マイクロ・ナノバブル技術シンポジウム開催要綱が説明された。また、これに関連して、大成リエゾン専門委員長から、リエゾン専門委員会が他機関と共催してシンポジウム等の行事を行う際に準備金を 25 万円程度用意したいとの要望があり、これを承認した。

5.3 学生会報告

齋藤学生会担当理事作成の提出資料 2007-2-05c に基づき、大参総務部会長から、学生会世話役名簿、夏季セミナーの準備状況、および学生優秀講演賞の選考経緯と選考結果が報告された。学生優秀講演賞の選考結果については、資料回覧の後、原案の通り承認した。

5.4 日本混相流学会 20 周年記念式典・祝賀会の収支決算報告

創立 20 周年記念式典実行委員会から収支決算報告書が提出され、これを承認した。

6. その他

資料 2007-2-06 に基づき、以下の件について大参総務部会長から報告があり、意見交換を行った。

6.1 ホームページ更新関連

- 会長挨拶のページの更新が報告された。これに関連して、従来掲載されていた会長の電話、FAX、E-mail アドレスや、歴代会長の生年月日等の個人情報の掲載が適当か否かについて討議し、これらの情報は掲載しないこととした。
- 委員会委員以外の役員名簿が更新済みであること、学会賞受賞一覧が更新準備中であることが報告された。
- 投稿論文のオフセット原稿の書き方に Word ファイルのテンプレートが掲載されていなかったが、高橋編集委員長より編集委員会が対応する予定である旨報告された。
- 賞雅先生から依頼のあった「混相流の唄」の掲載について討議し、掲載を承認した。

6.2 論文精選集からの論文賞推薦関連

本年度の論文賞選考における論文精選集掲載論文の推薦手続きについて確認を行い、原案通り承認した。また、次回からは論文精選集掲載論文は会誌掲載論文と同じ取り扱いをすることとした。

6.3 年会講演会 2009 開催地と実行委員長

年会講演会 2009 開催地と実行委員長について意見交換を行った。

6.4 論文精選集 III の発行スケジュール（案）について

社河内論文審査委員長から提示された論文精選集 III の発行スケジュール（案）を承認した。

6.5 旅費関連

理事会旅費の算定結果を承認した。

6.6 その他

リエゾン専門委員会の今後の展開、論文投稿数を増加させる方策、インドネシア混相流学会設立への協力に関する意見交換を行った。

以上

作成：大参達也（総務部会長）